

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	新庄コアカレッジ
設置者名	学校法人最上広域コア学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業	情報システム科	夜・通信	2,040 時間	160 時間	
商業実務	医療ビジネス科	夜・通信	1,080 時間	160 時間	
	ビジネス IT 科	夜・通信	2,040 時間	160 時間	
教育・社会福祉	介護福祉科	夜・通信	1,950 時間	160 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学生便覧及び教育課程 入手方法:本校にて配布

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	新庄コアカレッジ
設置者名	学校法人最上広域コア学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

理事名簿 入手方法:本校にて閲覧可

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	クリエイティブ 21 取締役	2021. 4. 1～ 2023. 3. 31	経営計画の策定
非常勤	クリエイティブ 21 顧問	2021. 4. 1～ 2023. 3. 31	経営計画の策定
非常勤	新庄市長	2021. 4. 1～ 2023. 3. 31	組織運営体制への チェック機能
非常勤	戸沢村長	2021. 4. 1～ 2023. 3. 31	組織運営体制への チェック機能
非常勤	鮭川村長	2021. 4. 1～ 2023. 3. 31	組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	新庄コアカレッジ
設置者名	学校法人最上広域コア学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>教育課程編成委員会の意見を反映し、各授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標の見直しを行い、毎年年度末に成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、年度当初に学生便覧及び各授業科目のシラバスで公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	学生便覧及びシラバス 入手方法：本校にて閲覧可
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<p>学則第 13 条第 2 項により、科目修了認定試験に関する規定(科目修了の認定方法、出席時数による試験の受験資格、試験の時期、科目の成績評価の方法、再試験について等を規定している)および進級・卒業に関する規定(進級要件、卒業要件について規定している)により認定している。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>客観的な指標の算出方法は、次の通り。 履修科目の成績評価(優3点、良2点、可1点、不可0点)の合計の平均点をNとし、算出する。 また、求めた指標Nにより、学科毎に成績の分布状況を把握する。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>GPAの算出方法 入手方法：本校にて閲覧可</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>学則第13条第2項により、進級及び卒業に関する規定の中で定めている。 具体的には、以下の通り。 1 以下の2つの条件を満たした時、進級・卒業ができる。 1) 一般教養科目 : 2/3以上の科目単位取得 (介護福祉科については、120時間以上選択) 2) 専門科目 : 全科目単位取得 3) 実習科目 : 全科目単位取得</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>学生便覧 入手方法：本校にて閲覧可</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	新庄コアカレッジ
設置者名	学校法人最上広域コア学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://shinjo.core-gakuen.com/courcex/
収支計算書又は損益計算書	https://shinjo.core-gakuen.com/courcex/
財産目録	https://shinjo.core-gakuen.com/courcex/
事業報告書	本校にて閲覧可
監事による監査報告（書）	本校にて閲覧可

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報 (1) (情報システム科)

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業		専門課程	情報システム科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼	2,160 単位時間	900 単位時間		1,260 単位時間			
				2,160 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人		8人	0人	7人	1人	8人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）												
（概要） 教育課程編成委員会の意見を反映し、各授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標の見直しを行い、毎年年度末に成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画（シラバス）を作成し、学生便覧およびホームページに公表している。												
成績評価の基準・方法												
（概要） 学則第13条第2項により、科目修了認定試験に関する規定の中で評価基準について定めている。具体的には、以下の通り。 4 科目の成績は、100点を満点とし、50点以上を合格とする。 その評価は、次のとおりとする。 <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>・ 80点以上</td> <td>100点まで</td> <td>優</td> </tr> <tr> <td>・ 60点以上</td> <td>80点未満</td> <td>良</td> </tr> <tr> <td>・ 50点以上</td> <td>60点未満</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>・ 50点未満</td> <td></td> <td>不可</td> </tr> </table> ※再試験の評価は、可の範囲で行う。	・ 80点以上	100点まで	優	・ 60点以上	80点未満	良	・ 50点以上	60点未満	可	・ 50点未満		不可
・ 80点以上	100点まで	優										
・ 60点以上	80点未満	良										
・ 50点以上	60点未満	可										
・ 50点未満		不可										

<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>学則第13条第2項により、進級及び卒業に関する規定の中で定めている。 具体的には、以下の通り。</p> <p>1 以下の2つの条件を満たした時、進級・卒業ができる。</p> <p>1) 一般教養科目 : 2/3以上の科目単位取得 (介護福祉科については、120時間以上選択)</p> <p>2) 専門科目 : 全科目単位取得</p> <p>3) 実習科目 : 全科目単位取得</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>毎月の出席管理および個人面談、三者面談の実施により、きめ細かな学修支援を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (%)	人 (%)	0人 (%)	人 (%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容) 就職対策講座をカリキュラムに組み込んでおり、さらに三者面談、面接指導を行っている。			
(主な学修成果 (資格・検定等)) J検3級合格、B検3級合格、Word文書処理技能認定試験2級合格、Excel表計算技能認定試験2級合格、Accessデータベース処理技能認定試験2級合格等			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
8人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

①学科等の情報 (2) (医療ビジネス科)

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門課程	医療ビジネス科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,160 単位時間	1,380 単位時間		780 単位時間		
			2,160 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		7人	0人	7人	4人	11人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)												
(概要) 教育課程編成委員会の意見を反映し、各授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標の見直しを行い、毎年年度末に成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、学生便覧およびホームページに公表している。												
成績評価の基準・方法												
(概要) 学則第13条第2項により、科目修了認定試験に関する規定の中で評価基準について定めている。具体的には、以下の通り。 4 科目の成績は、100点を満点とし、50点以上を合格とする。 その評価は、次のとおりとする。 <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>・80点以上</td> <td>100点まで</td> <td>優</td> </tr> <tr> <td>・60点以上</td> <td>80点未満</td> <td>良</td> </tr> <tr> <td>・50点以上</td> <td>60点未満</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>・50点未満</td> <td></td> <td>不可</td> </tr> </table> <u>※再試験の評価は、可の範囲で行う。</u>	・80点以上	100点まで	優	・60点以上	80点未満	良	・50点以上	60点未満	可	・50点未満		不可
・80点以上	100点まで	優										
・60点以上	80点未満	良										
・50点以上	60点未満	可										
・50点未満		不可										
卒業・進級の認定基準												
(概要) 学則第13条第2項により、進級及び卒業に関する規定の中で定めている。 具体的には、以下の通り。 1 以下の2つの条件を満たした時、進級・卒業ができる。 <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>1) 一般教養科目</td> <td>: 2/3以上の科目単位取得</td> <td>(介護福祉科については、120時間以上選択)</td> </tr> <tr> <td>2) 専門科目</td> <td>: 全科目単位取得</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3) 実習科目</td> <td>: 全科目単位取得</td> <td></td> </tr> </table>	1) 一般教養科目	: 2/3以上の科目単位取得	(介護福祉科については、120時間以上選択)	2) 専門科目	: 全科目単位取得		3) 実習科目	: 全科目単位取得				
1) 一般教養科目	: 2/3以上の科目単位取得	(介護福祉科については、120時間以上選択)										
2) 専門科目	: 全科目単位取得											
3) 実習科目	: 全科目単位取得											
学修支援等												
(概要) 毎月の出席管理および個人面談、三者面談の実施により、きめ細かな学修支援を行っている。												

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
10 人 (100%)	人 (%)	10 人 (100%)	人 (%)
(主な就職、業界等) 医薬品販売業、医療事務			
(就職指導内容) 就職対策講座をカリキュラムに組み込んでおり、さらに三者面談、面接指導を行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 登録販売者試験合格、医療事務技能審査試験 2 級医科合格、Word 文書処理技能認定試験 2 級合格、Excel 表計算技能認定試験 2 級合格、B 検 3 級合格 等			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
12 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

①学科等の情報 (3) (ビジネスIT科)

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門課程	ビジネスIT科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,160 単位時間	1,020 単位時間		1,140 単位時間		
			2,160 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	1人	0人	7人	4人	11人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)												
(概要) 教育課程編成委員会の意見を反映し、各授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標の見直しを行い、毎年年度末に成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、学生便覧およびホームページに公表している。												
成績評価の基準・方法												
(概要) 学則第13条第2項により、科目修了認定試験に関する規定の中で評価基準について定めている。具体的には、以下の通り。 4 科目の成績は、100点を満点とし、50点以上を合格とする。 その評価は、次のとおりとする。 <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>・80点以上</td> <td>100点まで</td> <td>優</td> </tr> <tr> <td>・60点以上</td> <td>80点未満</td> <td>良</td> </tr> <tr> <td>・50点以上</td> <td>60点未満</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>・50点未満</td> <td></td> <td>不可</td> </tr> </table> <u>※再試験の評価は、可の範囲で行う。</u>	・80点以上	100点まで	優	・60点以上	80点未満	良	・50点以上	60点未満	可	・50点未満		不可
・80点以上	100点まで	優										
・60点以上	80点未満	良										
・50点以上	60点未満	可										
・50点未満		不可										
卒業・進級の認定基準												
(概要) 学則第13条第2項により、進級及び卒業に関する規定の中で定めている。 具体的には、以下の通り。 1 以下の2つの条件を満たした時、進級・卒業ができる。 <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>1) 一般教養科目</td> <td>: 2/3以上の科目単位取得</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(介護福祉科については、120時間以上選択)</td> </tr> <tr> <td>2) 専門科目</td> <td>: 全科目単位取得</td> </tr> <tr> <td>3) 実習科目</td> <td>: 全科目単位取得</td> </tr> </table>	1) 一般教養科目	: 2/3以上の科目単位取得		(介護福祉科については、120時間以上選択)	2) 専門科目	: 全科目単位取得	3) 実習科目	: 全科目単位取得				
1) 一般教養科目	: 2/3以上の科目単位取得											
	(介護福祉科については、120時間以上選択)											
2) 専門科目	: 全科目単位取得											
3) 実習科目	: 全科目単位取得											
学修支援等												
(概要) 毎月の出席管理および個人面談、三者面談の実施により、きめ細かな学修支援を行っている。												

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 （ %）	0人 （ %）	0人 （ %）	人 （ %）
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容） 就職対策講座をカリキュラムに組み込んでおり、さらに三者面談、面接指導を行っている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） J 検 3 級合格、Word 文書処理技能認定試験 3 級合格、Excel 表計算技能認定試験 3 級合格 等			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
1 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組）		

①学科等の情報 (4) (介護福祉科)

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		専門課程	介護福祉科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,950 単位時間	990 単位時間		960 単位時間		
			1,950 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	8人	0人	7人	2人	9人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)												
(概要) 介護福祉士養成校の基準カリキュラムをベースに、一般教養科目については毎年度見直しを行い、各授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標の見直しを行い、毎年度末に成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、学生便覧およびホームページに公表している。												
成績評価の基準・方法												
(概要) 学則第13条第2項により、科目修了認定試験に関する規定の中で評価基準について定めている。具体的には、以下の通り。 4 科目の成績は、100点を満点とし、50点以上を合格とする。 その評価は、次のとおりとする。 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>・80点以上</td> <td>100点まで</td> <td>優</td> </tr> <tr> <td>・60点以上</td> <td>80点未満</td> <td>良</td> </tr> <tr> <td>・50点以上</td> <td>60点未満</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>・50点未満</td> <td></td> <td>不可</td> </tr> </table> <u>※再試験の評価は、可の範囲で行う。</u>	・80点以上	100点まで	優	・60点以上	80点未満	良	・50点以上	60点未満	可	・50点未満		不可
・80点以上	100点まで	優										
・60点以上	80点未満	良										
・50点以上	60点未満	可										
・50点未満		不可										
卒業・進級の認定基準												
(概要) 学則第13条第2項により、進級及び卒業に関する規定の中で定めている。 具体的には、以下の通り。 1 以下の2つの条件を満たした時、進級・卒業ができる。 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>1) 一般教養科目</td> <td>: 2/3以上の科目単位取得</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(介護福祉科については、120時間以上選択)</td> </tr> <tr> <td>2) 専門科目</td> <td>: 全科目単位取得</td> </tr> <tr> <td>3) 実習科目</td> <td>: 全科目単位取得</td> </tr> </table>	1) 一般教養科目	: 2/3以上の科目単位取得		(介護福祉科については、120時間以上選択)	2) 専門科目	: 全科目単位取得	3) 実習科目	: 全科目単位取得				
1) 一般教養科目	: 2/3以上の科目単位取得											
	(介護福祉科については、120時間以上選択)											
2) 専門科目	: 全科目単位取得											
3) 実習科目	: 全科目単位取得											
学修支援等												
(概要) 毎月の出席管理および個人面談、三者面談の実施により、きめ細かな学修支援を行っている。												

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
9人 (100%)	0人 (%)	9人 (100%)	人 (%)
(主な就職、業界等) 介護老人保健施設、介護老人福祉施設 等			
(就職指導内容) 就職対策講座をカリキュラムに組み込んでおり、さらに三者面談、面接指導を行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 介護福祉士資格取得、ケア・コミュニケーション検定合格、Word 文書処理技能認定試験 3 級合格、Excel 表計算技能認定試験 3 級合格、B 検 3 級合格 等			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
8 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
情報システム科	150,000 円	480,000 円	220,000 円	施設設備費、実習費
医療ビジネス科	150,000 円	480,000 円	220,000 円	施設設備費、実習費
ビジネス I T 科	150,000 円	480,000 円	220,000 円	施設設備費、実習費
介護福祉科	150,000 円	480,000 円	270,000 円	施設設備費、実習費
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://shinjo.core-gakuen.com/		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 学校教職員による自己評価結果及び改善方策等について、5名の委員からなる学校関係者評価委員会を開催し、改善点や工夫などの意見や助言に基づいて、学校の質保証・向上を図る。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
最上広域市町村圏事務組合 事務局長	R4. 4. 1～R5. 3. 31	団体等委員
新庄商工会議所 事務局長	R4. 4. 1～R5. 3. 31	団体等委員
新庄最上薬剤師会 会長	R4. 4. 1～R5. 3. 31	企業・団体等委員
新庄市 総合政策課 課長	R4. 4. 1～R5. 3. 31	団体等委員
東北情報センター 代表取締役社長	R4. 4. 1～R5. 3. 31	企業等委員
新庄コアカレッジ 後援会会長	R4. 4. 1～R5. 3. 31	保護者
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://shinjo.core-gakuen.com/		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://shinjo.core-gakuen.com/ 学生便覧
--

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	新庄コアカレッジ
設置者名	学校法人最上広域コア学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		-人	-人	-人
内 訳	第Ⅰ区分	-人	-人	
	第Ⅱ区分	-人	-人	
	第Ⅲ区分	-人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				-人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）
の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給
付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより
認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学 等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人

G P A等が下位4分の1	0人	0人	0人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。